

○学2年生男女
8人グループが
山の中腹の天然温泉で
大乱交
激しすぎるセックスで
童貞処女を卒業

ここは山の中腹の天然温泉。

○学 2 年生のとある同じクラスの仲良し男女グループが、学校には内緒で旅行へ来ている。

「キャハハッ！やっぱ温泉っていいかもっ！あったかそお～」
目を輝かせるリリナ。

「ほんとだあ、湯気すっごおい！！ねえねえ見てよこれっ！」
モクモクと空へ立ち上る湯気を見てサキが喜びの声。
湯船の表面は天然温泉の濃い成分で白く濁っている。

「もうすぐ男子の奴らが入って来るんだよねえ！あの変態軍団っ！」
少し警戒の表情を浮かべるも、やはり皆で楽しい温泉旅行、すぐに顔がほころんでしまうのはナナミ。

「ヤダヤダァッ！！フフッ！！」
隣でミカも微笑んでいる。

そして、

「よっしゃああっ！！温泉だぜえええ！！」
大声を上げ、飛び込んできたのは男子たち。

ここはフェンスと風呂の岩縁くらいしか人手が加えられていない名前通りの天然温泉。

当然ながら“混浴”だ。

エロいことばかり考えている男子たちの中でも変態で有名のナオトにスポーツ万能、勉強はいまいちのユウ。一方で勉強は出来るが部活は卓球部、地味だと皆に馬鹿にされているノブト。最後に引っ込み思案だがスタイルも顔もよく、女子たちからモテているマサユキ。

「ちょっとお！案の定あんな感じじゃああん！変態男子めええ！！」

「キャッ！ほんとやだよねえ！裸なんて死んでもあんな変態たちに見せられないよお！！」

「ほんとほんとお！！」

男子たちの出現で、キュッと胸元から巻いたバスタオルを絞めて防御の姿勢に入る女子たち。

そして彼女たちとはまるで対照的に、羞恥とは対極といった感じで無防備な男子たち。大胆にふるまっている。

とは言っても彼らとてまだ○学 2 年生で、その上実は女子と一緒に旅行など初めてのチェリーボーイ。

強がってただけで、内心、心臓は飛び出そうなほど高ぶっていた。

そして……。

この計 8 人の男女グループはこの温泉旅行、そしてこの誰もいない田舎の混浴露天風呂で、一つの終焉を迎えることとなる。

“青臭い童貞処女の少年少女”

という、身にまとった肩書を……。

「えっ！！キャアアッ！！ちょ、ちよっとお！マサユキのおちんちんっ！おっきくなってるよおおっ！！」

「えええっ！うそおっ！ちょ、キャアアアツツ！！」

男子たちが露天風呂へ登場してはや一分、マサユキのペニスがムクムクムクッと大きく勃起し、上を向いて起き上がったのだ！！

「イヤアッ！！変態っ！やっぱ変態っ！キャアアッ！！」

まだ湯船に入る前のことだ。

男子たちは股間を隠すことなく全裸でいたため、女子たちにも見えてしまったのだ。

女子たちは驚き嫌がって逃げ出す……。

かと思えば……。

「……だ、だけどさ……す、すごいエッチじゃないっ！？でもさ、よく見てみると……」

はじめは嫌がる素振りをしていた女子たちだったが、そのナナミの言葉をきっかけに……。

「……確かに……言われてみれば……」

「……だよねえ、男子たちって変態だからって嫌だとばかり思ってたけど……よく見たらおちんちんってエッチかも……」

ビクンビクンッ！と斜め急角度を向いて反り返るマサユキのペニス。

それに続いて、残りの 3 人のペニスも同じ状態となった。

女子たちの目の色が変わり出す。

「そ、そんなジロジロ見るなよな！は、恥ずかしくはないけど、……それでも照れるだろお！？？」

ノブトが一言。

「だ、だよなあ！俺たち男だからって、恥ずかしくないと思ってんのかよ！！」

そんなユウの言葉を受けて、サキが言った。

「じゃあさ、恥ずかしいのは女子も男子も違いなんてことでしょ？」

「そうだよ」

「じゃあ、みんなこの際さっ！仲良しグループ水入らずってことで、裸でとことんさらけ出し合おうよ！！」

サキは迷いのない無垢な瞳だった。

体験版はここまでです。

もし気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけると幸いです。